



【1学期にこんな場面が見られました】その一部をご紹介します。

＜だんだんと友達に・・＞～年少と年長とのかかわり～

入園や進級を経て、年少児と年長児のかかわりがいろいろな場面で見られます。時間を作って意図的にかかわる時もあれば、遊びの時間に自然とかかわる姿もあります。年少児にとっては、かかわる人たちが広がったり、新たなことを知ったりなどの機会となり、年長児にとっては、年少児とかかわることで自分の成長を感じたり、相手に合わせて接する術を学んだりする機会にもなることでしょう。



年長児が照れながら園服を着る手伝いをしていました。何でもやってあげるのではなく、年少児ができそうなところは見ていてあげる場面もありました。



年少組の歓迎会。年長児が年少児と一緒に楽しみたいことを考えて、手遊びや遊戯、プレゼントを渡すことにしました。

右の写真は、遊びの時のやりとりです。年長児がきちんと年少児と向き合う姿が印象的でした。



作り方見てて



山を作ろう！



こうやって乗るよ。



履かせてあげよう。

＜夏まつりをしよう＞ 年長児が自分たちのお店を開こうと活動を進めていました。

お店の準備をする中で、戸惑うことも出てきます。例えば、輪投げの土台に牛乳パックを使うことになったけれども、そのままでは牛乳パックだとわかってしまうので色画用紙を貼ろうとしていました。しかし、すき間があいたりパックのそそぎ口があったりして、一筋縄ではいきません。教師がこうすれば・・と言ってしまえばすぐに解決するのもかもしれませんが、それでは何も考えず気づかずじまい。このようなことを繰り返しながら一つ一つ進めていきました。



また、相談することが増えれば自然と言葉で自分の思いを伝えたり、相手の話を聞いたりする力が積み重ねられます。トラブルが起こった時に、どうすればよいかをみんなと考えることで、次第に自分たちで解決しようとするでしょう。

いろいろと遠回りをしながら友達と作ったお店です。年少さんや年長同士、未就園児との夏まつりでは、呼び込みをしたり遊び方を説明したり・・。一人一人が楽しみながら頑張る姿が見られました。



「一人ずつ書こうよ。」
(ポスター作りの相談)



いよいよ夏まつり。最初はドキドキしていましたが、次第にお客さんとのやりとりも楽しくなってきたようです。